

問題冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。

二〇二六年度 S方式 入学試験問題

国語

注意事項

- 一 問題冊子と解答用紙は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。机の上の受験番号が受験票の受験番号と同一であることを確認しなさい。
- 二 受験票は、受験番号が見える面を上にして、机の上の受験番号と並べて置きなさい。
- 三 受験票のほかに試験時間中机の上に置くものは、黒鉛筆（和歌・格言等が印刷されているものは不可）、鉛筆キャップ、シャープペンシル（メモや計算に使用する場合のみ可。黒い芯に限る。ボールペン付きは不可）、プラスチック製の消しゴム、鉛筆削り（電動式、大型のもの、ナイフ類は不可）、時計（辞書・電卓・端末等の機能があるものやそれらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマーや学習タイマー、大型のものは不可）、眼鏡、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー（袋又は箱から中身だけ取り出したもの）です。
- 四 解答用紙に、正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 五 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。
- 六 解答には、必ず黒鉛筆を使用しなさい。シャープペンシルでも読み取れない場合がありますので、使用は避けなさい。訂正はプラスチック製の消しゴムを使い、消し跡が残らないよう、きれいに消しなさい。
- 七 携帯電話等の電子機器類は、必ずアラームの設定を解除し、電源を切っておきなさい。試験時間中にこれらをかばん等にしまわず、身につけていたり手に持っていたりすると不正行為となることがあります。
- 八 また、試験時間中にかばん等の中で携帯電話等の着信音やマナーモードの振動音などが発生した場合には、監督者が本人の了解を得ずにかばん等を試験室外に持ち出し、試験本部で試験終了まで保管します。
- 九 監督者の指示があるまでは、試験室から退室できません。
- 十 試験開始の合図があったら、解答用紙の指定された欄に受験番号・氏名を記入しなさい。
- 十一 問題は2ページから23ページまであります。試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合には、手を挙げて、すみやかに監督者に告げなさい。
- 十二 試験時間中気分が悪くなった場合は、監督者に申し出なさい。ただし、休養等に要した時間の延長は認めません。
- 十三 不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を指示され、それ以後の受験はできなくなります。また、同日に受験したすべての教科・科目の成績を無効とします。
- 十四 解答用紙は必ず提出しなさい。問題冊子は持ち帰りなさい。

〔一〕 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

日本に新暦（太陽暦）が導入されたのは明治六（一八七三）年である。このとき分や秒の新しい語彙も生まれた。教育面では寺子屋方式から定時に始まる学校制度へと移行した。小学生の教科書にはじめて時間（ただし時間割の意味）ということばが現れたのもこの年である（『小学読本 巻一』）。

甲

では時間とともに何が導入されたのか。それは計量思考。遅刻の概念もその系統のひとつだ。それ以前に寺子屋では適当なときにやって来て授業が終われば帰るというのが常態だった。いまでも習字教室などではこの方式が部分的に受け継がれている。

漱石の『吾輩は猫である』を読み返すと、確かにいまとあまり変わらない気ぜわしい場面もあるにはあるが、全体を流れる時間はおおむねゆつくりとしている。迷亭がその場にいる苦沙弥先生と寒月にあるエピソードを開陳する。その冒頭、知り合いの越智東風から「参堂の上是非文芸上の御高話を伺ひたいから御在宿を願ふ」という手紙が来たと言う。

乙

との依

頼だ。文学談義はお手のものの迷亭は「朝から心待ちに待つ」たがなかなか来ないうえ、「昼飯を食つて」ストーブの前で読書をしていてもまだ来ない。そのうち「晩飯になつたから（……）東風が来たら待たせて置けといふ気になつて」散歩に出かけた。その途中ちよつとしたことがあつてうちに帰ると東風はまだ来ていない。代わりに事情があつてその日はいけなくなったとの葉書が届いていた。

エピソードの中心は別なところにあるが、ここで問題にしたいのは東風と迷亭の時間感覚であり、また話を聞いている苦沙弥先生と寒月とそれに吾輩の時間意識である。人の家を訪ねていくのなら今日の常識では何時と時間を指定するものだろう。いつこうにその気配がない。高等遊民の迷亭は差し置いても、猫の吾輩も何ら不審としない。

それだけではない。苦沙弥先生宅にやって来る他の連中も、誰一人として前もつての約束などすることもなくいきなりどやどやと座敷に上がり込んでくる。またこれに奥さんも別段いやな顔ひとつ見せず、吾輩の批判の鋒先もここに向くことはない。夜半の

泥棒が無断で押し入るのは商売柄仕方がないが、のちにそれが捕まったという知らせで盗品を受け取りに出向く先生が学校を簡単に休んでしまうのも、今日の基準からするとあまりにも豪胆だ。^(c)この小説が発表されたのは明治三十八（一九〇五）年から三十九年にかけての雑誌『ホトトギス』の誌上だった。おそらく近代的时间概念への過渡期の一面を示すのだろう。⁽²⁾

その証拠のひとつとして「それから約七分位すると注文通り寒月君が来る」の一文を引こう。七分というやたら細かな数字もこうしてたまにでる。時間にうるさいのか鷹揚なのか。^(d)その一方で苦沙弥先生が警察に盗品の品受けに行ったときは、言われた通りに朝の九時ごろにシユットウ^(ア)したはずが十一時まで待たされるはめになる。悠長なものだ。しかし悠長なのは実のところどちらかわからない。先生は「三時間も待たされて」腹立ちを隠さないが、九時から十一時までなら待ち時間は二時間のはず。しかもその間「待つてゐるのがタイクツだから」と言ってその近辺の散歩に出かけて吉原まで足を延ばし、珍品と称する油壺もどきまで手に入れてくる。実際に警察で品受けをしたのは何時だったのかしら。

さて漱石は『吾輩は猫である』の中で二十九回時間ということばを使った。その約半分（十四例）は一時間、二時間などの時間の単位を表す用法で、時間の一点としての時刻の意味の時間は五例ある。また「長時間のあひだ」の時間は線分としての時間でありこの類が六例見える。残りの四例を左に書きだそう。

- 1 少々時間がかかります。
- 2 時間を潰す。
- 3 大切な時間を半日潰してしまった。
- 4 時間のたつのが遅い。

まず全体的な印象を記すと、意外と時間⁽³⁾の表現幅が狭い。これは時代的制約のためなのか。それとも漱石の表現技量のせいなのか。もちろん後者じゃない。『吾輩は猫である』はまさにことばの奔流。沸き立つ言辞、渦巻く饒舌^(じょうぜつ)、談論^(わんろん)フウハツとどまるところ

ろを知らず風刺と諧謔かいぎやくのしぶきをあげて一気に流れ下る。どのページを開いても表現技法の宝庫であり、豊かな修辭に富む。時間の表現にやや不足を感じる点があるならば、それは時代のせいだろう。

この点はほぼ同時代の、そして漱石作品の中で同じく最初期に属する『坊つちやん』でも同じだ。作品そのものは別の味わいがあるが、時間に関しては右で述べたこと以上の見るべき表現はとくに見当たらない。もちろん後の作品ではもつと豊かな時間表現が見られる。少し『こゝろ』から例を拾うと、時間が惜しい、時間に余裕をもっている、時間を奪われる、時間を省く、時間を惜しむ、時間を盗むなどなど。これ以上の深入りはしないが、この筋を丹念にたどれば時間概念の発展がある程度跡づけられるだろう。漱石作品におけるその深化と時代的変遷拡大の二つの位相(4)において。

では1から4を個別的に見よう。

1 少々時間がかかります。

時間がかかる、時間のかかるは今日では当たり前の表現だが、明治ではまだかなり鮮度の高い比喩表現だったろう。かかるは掛かるであって、時間が掛かるは計量思考を表すメタファーのひとつである。他動詞形は掛ける。次の三つの表現を比べよう。

枝に羽衣がかかる。

肩に負担がかかる。

行為にお金がかかる。

丙

。〈AにBがかかる〉の枠組で考えれば、一番目はAが枝でBが羽衣とともに具象物。二番目ではAが肩で具象物でありBが負担で抽象物。最後はAが行為の抽象物でBのお金もかなりな抽象物（札や硬貨は具象物だがお金そのものは

まだ抽象性も保つ)。ある行為をするのにお金・人手などが必要となり、時間もそのひとつに加わる。お金・人手が計量されるように時間も計量されると見なす。1はこのような意味ネットワークの中で成立する表現だ。

2と3は基本的に同じに見える。

2 時間を潰す。

3 大切な時間を半日潰してしまった。

2は現代にも通用するイディオムである。『*日本国語大辞典』で漱石の2が引用されることからすると、2はこの表現の初出例である可能性が高い。もちろんメタファーだ。潰すとは一般に明瞭な輪郭のある個物に外圧を加えて形を崩すこと。食肉用の動物を対象とするなら殺すも意味する。鶏であれば一羽の鶏を鶏肉に変える過程だ。一羽の鶏なら輪郭がはっきりするが、鶏肉になれば形が崩れて一単位分ユニットがわからなくなる。英語なら a chicken (一羽の鶏) から chicken (鶏肉) への質的变化であり、文法的には可算名詞から質量名詞 (不可算名詞) への転換に相当する。

漱石は周知のように 丁 であった。当然英語のイディオム 丁 Time は知っていたはず。それを時間を潰すと表現したのは適切である。空いた時間を無益なことをして過ごす。暇を潰すとも言う。茹ゆでたじゃがいもを潰すと一個の形が崩れて平らになる。問題点を一つひとつ潰すと出っ張りがなくなつて平たくなる。これと同じように時間6を潰すと(余つた)時間のまとまりがなくなつてしまう。これは鶏を潰す行為とも手を結ぶ。意味の緊密なネットワークが見えるだろう。

時間を潰すに対してときを潰すとは当時も今も言わない。これは先にシエサしたように、時間には計量思考がまとわりついているためである。根本には以下のような対立がある。時間がある／ないとは言うが、ときがある／ないとは言わない。時間は明治の初期に導入されて以来、計量思考に従うことが運命づけられた。時間があれば一時間、二時間と計量され、あるいは分と秒に刻まれる。時間は余ることも不足することもあるが、ときが余つたり足りなくなつたりすることはふつうない。

2と3について少し補足しよう。2の文脈は次の通り。

人間といふものは時間を潰すために強いて口を運動させて、可笑しくもない事を笑つたり、面白くもない事を嬉しがつたりする外に能もない者だと思つた。

これは吾輩の意見であり、人間はおしゃべりをして時間を無益に過ごすという意味である。他方3は苦沙弥先生が例の警察署へ出向いた際、すぐに反応してもらえなかつたので結局時間を半日無駄にした場面。時間を棒にふつた、損をしたという感じが前面に出る。大切の時間と時間を限定し、時間を潰す量を半日と明記する。⁽⁷⁾2より3の方が計量思考がより鮮明である。

4については関連することにすでに触れたが、次の二つの表現には実は極端な頻度の差がある。どちらが第一感として頭に浮かぶだろうか。

時間の経つのが遅い。

ときの経つのが遅い。

これもいかにことばが精妙にできているかをよく示す。Googleの検索では前者の時間が六八三九件、後者のときがわずか七十七件(二〇一六年十月十六日現在)。約百倍の落差である。これが驚くべき結果であることは、右の例の遅いを早いに取り替えた表現、つまり「時間の経つのが早い」と「とき(時)の経つのが早い」とではほぼ頻度数が同じであることから窺えよう。なぜか。理由は推測できる。しかしその前に、読者の頭の中でこの言語事実を確かめてもらいたい。なるほどそうだとシユコウできるだろうか。⁽⁸⁾私たちの頭の中の言語データは、頻度に関しても敏感に反応するはずだ。

理由はこうだろう。時間の経つのが遅いと感じるのはどういう状況かを考えてみる。何かをじりじりとした思いで待つときだ。

何度も時計に目をやる。時計の針は遅々として進まない。時間の経過が遅いと感じるとき、私たちは主に時計による計量思考の支配下にある。これが同じような表現でありながら約百倍の頻度差を生む原因になったのではないか。逆に時間／ときの経つのが早いと感じるときは、計量思考による束縛はそれほど強くないように思われる。

時間／ときが経つという表現では、⁽⁹⁾元々ときが有していた領域に次第に時間が侵入を企て、とりわけ計量思考が容易なところでは時間がどんどん実権を握るようになった。これが実情に近いのではないか。『吾輩は猫である』のわずか三年後の『三四郎』（一九〇八年）ではすでに次のような一文に出会う。

大切な時間を浪費される

時間を浪費する／させるは今日では平凡な表現になってしまったが、右はその初出例である可能性が高い。これはより洗練度が増した計量表現である。時間はこのようなプロセスを経てしだいに西歐的な計量思考を^(カ)タイゲンする概念となって私たちのことばに思考に浸透してゆく。

（瀬戸賢一『時間の言語学』による）

注 * 『吾輩は猫である』 夏目漱石の最初の小説。迷亭、苦沙弥先生、寒月、越智東風はいずれも登場人物。

* 高等遊民 高等教育を受けていながら、職業につかず暮らしている人。

* メタファー 比喩の一つ。「…のようだ」「…のごとし」などの形を用いず、たとえば「人生は旅だ」というように、そのものの特徴を他のもので表現する方法。隠喩。

* 『日本国語大辞典』 小学館から刊行された、現時点で日本最大規模の国語辞典。第一版は一九七二～六年刊行。現行の第二版は二〇〇〇～二年刊行。用例は原則として初出を掲げる方針をとっている。

問一 傍線部(ア)の(カ)を漢字に直した場合、それと同じ漢字を含むものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。解答番号

は 1 〃 6。

(ア) シュツトウ

- ① 方位磁石はトウザイ南北を教えてくれる。
- ② こうした非情の行為に対してトウゼンの報いだ。
- ③ 絶えざる努力によってトウカクをあらわしはじめた。
- ④ この伝記はある人物の気高さをトウエイしている。

(イ) タイクツ

- ① 深い森の中のドウクツに財宝が隠されていた。
- ② 佐渡ではかつて金がサイクツされていた。
- ③ 新しいスニーカーなのにクツゾコがすぐ傷んだ。
- ④ あの人はフクツの精神を持っている。

(ウ) フウハツ

- ① フウフ別姓の問題を国会で審議する。
- ② 事故によって道路がフウサされた。
- ③ この地域の世態フウゾクには特色がある。
- ④ あの人はフウキな家の出身である。

(エ) シサ

- ① 交通ジコによる死者は減ってきている。
- ② 銀行にジゲン爆弾がしかけられたという通報があった。
- ③ この人の筆跡は父親のそれにルイジしている。
- ④ 製品の販売差止め理由のカイジを求めた。

(オ) シュコウ

5

① コウテイも否定もなく、議事は静かに進行した。

② 昼休みにコウナイ放送で音楽を流す。

③ スポーツではコウゲキと守備のバランスが大事だ。

④ 学生がコウガクシンを高めることは当然のことである。

① ドイツのカンゲン楽団の響きに独自性が薄れてきた。

② 日本の美しい山林の中に、豊かなスイゲンを確保する。

③ 過去を学ぶことによってゲンダイを知ることができる。

④ 自助努力といっても能力にはゲンカイがあるだろう。

(カ) タイゲン

6

問二 空欄甲・乙に入るべき文として最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は

7

8

(甲)

7

① ひとつの新しいことばの移入は、こちらの風土に適合するように意味の変形が行われる

② ひとつの新しいことばの移入は、ふつうその背景にある文化・思想を引き連れてくる

③ 新しい文化・思想は、従来の表現形式でそれを受け取るため意味のねじれが生じる

④ 新しい文化・思想は、それまでに存在した表現を急激に変化させる力をもつ

(乙)

8

① 大学で文芸的な講義の方法をぜひ伝授していただきたい

② お宅で文芸作品執筆に関する極意をぜひ伝授していただきたい

③ わが文学上の意見を聞いてもらいたいから在宅してほしい

④ 文学上のアドバイスが欲しいので在宅してほしい

問三 傍線部 (a) (d) は、やや古風な漢語的表現だが、どういう意味か。最も適当なものをそれぞれ次の中から選べ。解答

番号は 9 12。

(a)

- 9
- ① 分析する
 - ② 紹介する
 - ③ 告白する
 - ④ 非難する

(b)

- 10
- ① 楽しくもない
 - ② 質問が出せない
 - ③ 疑いをかくせない
 - ④ 変だと思わない

(c)

- 11
- ① 憎々しい
 - ② 強面の行いだこわもて
 - ③ 堂々たるものだ
 - ④ 抜け目がない

(d)

- 12
- ① 無神経なのか
 - ② 気質が鈍感なのか
 - ③ 気分が散漫なのか
 - ④ ゆったりしているのか

問四

傍線部(1)は「奥さん」や「吾輩」の、どういう感覚の行為として記されているのか。最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **13**。

① 人の家を訪問するのに、必ずしも前もって約束を取り付ける必要のなかった時代だったため、不意の訪問に対しても何ら違和感を持たない。

② 人の家を訪問するのにも一応は予告するのが常識である時代だったが、明治時代特有の人間の寛容さがそのような感覚を持たせていた。

③ 不意打ちの訪問はこの時代でも無礼な行動ではあったが、苦沙弥先生の親しい友人たちということで、あまり気にせずに対応した。

④ 予告なしに人の家を訪問することが、自他ともに相手に対する親愛の情の表れと解していたので、訪問されるほうもむしろそれを喜んでいた。

問五

傍線部(2)は、『吾輩は猫である』のどういう時間感覚の描写からそう言っているのか。最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **14**。

① この作品の中には、前近代的な時間感覚から近代的時間感覚への変化の過程がつぶさに見て取れる。

② この作品の中には、前近代的な時間感覚の描写の中に、ときおり細かな時間感覚の描写が混じっている。

③ この作品の中には、既に近代的時間感覚が根付いている描写の中に、そうでない描写がたまに入り込んでいる。

④ この作品の中には、近代的とも前近代的とも判別できぬ時間の描写が多数紛れ込んでいる。

問六 傍線部(3)は、どういふことを言っているのか。最も適當なものを次の中から選べ。解答番号は **15**。

- ① この作品では、「時間」といふことばの意味がほとんど一つに限定されている。
- ② この作品では、「時間」といふことばの使われ方が後世ほど多種多様ではない。
- ③ この作品では、「時間」自体の長さがきわめて短くなっている。
- ④ この作品では、「時間」といふことばの使用頻度が後世よりも少ない。

問七 傍線部(4)の説明として最も適當なものを次の中から選べ。解答番号は **16**。

- ① 漱石の作家的活動が時間に左右されがちだったことと、その時代の人々特有の行動様式。
- ② 漱石の作家的活動における作風の深化と、個性を超越した文学表現の時代性。
- ③ 漱石作品中の時間表現と、現代の時間表現と、その両者における深化と変化。
- ④ 漱石作品中の時間感覚の描かれ方の深化と、その感覚の時代的な変化の拡大。

問八 傍線部(5)は、どういふ意味か。最も適當なものを次の中から選べ。解答番号は **17**。

- ① 当時の人々の意表をつく比喩表現だった。
- ② 生れて間もない新しい比喩表現だった。
- ③ 人々の新鮮な驚きを想定した比喩表現だった。
- ④ これがこの比喩表現の最初の例であった。

問九 空欄丙に入るべき文として最も適當なものを次の中から選べ。解答番号は **18**。

- ① 次第に意味が社会的になるのがわかるだろう
- ② 次第に意味が物質的になるのがわかるだろう
- ③ 次第に意味が抽象化するのがわかるだろう
- ④ 次第に意味が具象化するのがわかるだろう

問十 空欄丁に入るべき語として最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **19**。

- ① 英文学者 ② 国文学者 ③ 小説家 ④ 漢詩人

問十一 傍線部(6)はどのような意味か。最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **20**。

- ① 「時間を潰す」という表現は、可算的な時間を、不可算的なものへ変換してしまう。
② 「時間を潰す」という表現を使えば、おのずからその意味の範囲があいまいになる。
③ 「時間を潰す」という行為自体が、その表現の抽象性とあいまってわかりにくくなる。
④ 「時間を潰す」という不可算的表現を使えば、可算的な意味には決して戻らない。

問十二 傍線部(7)の理由として最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **21**。

- ① 3に出てくる「半日」という語自体、近代になって森鷗外が作ったものであるから。
② 両者を比べた場合、2はまだ全体に前近代的な匂いを残した表現だから。
③ 3では「時間」が「大切の」と形容され、失われる残念さを想定できるから。
④ 「時間を潰す」分量を、3では可算的な「半日」という語で表したから。

問十三 傍線部(8)は比喩的な表現だが、その説明として最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **22**。

- ① 我々の言語感覚は、数値を示されなくても、集計結果の違いについての確に予想できる。
② 我々は脳の中に、自分の言語の使用頻度を計測する機能を有しており、実際のデータを見るまでもない。
③ 我々のもつ言語の使用頻度の感覚はほぼ正確で、実際の数値を見てもその感覚は妥当だと判断できる。
④ 我々は客観的に調査されたデータに依存する傾向が強く、たえずその結果に影響されてしまう。

問十四 傍線部(9)は比喩的な表現だが、その説明として最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **23**。

① 「とき」という語の意味範囲はきわめて広いものであったにもかかわらず、それが「時間」に置き換わっていったのは、近代になって計量思考が感覚的把握よりも優れたものと推奨されたからである。

② 「とき」という抽象性の高い、しかも前近代的な語彙の受け持っていた広い意味領域に、計量的な状況で用いられる「時間」が浸食してゆき、後者の使用頻度が過半を占めるようになった。

③ 「とき」と「時間」は元来同じ意味領域の語であったが、抽象的思考よりも計量思考のほうが、近代日本人の生活の中で高い価値を与えられたせいで、「とき」が「時間」に置き換わっていった。

④ 「とき」は元来具体的な意味を持つ語彙であったが、大和言葉であったせいで、明治以後は西洋語を翻訳する際に多用された漢語に取って替わられることになった。

問十五 本文の内容に合致しないものを次の中から一つ選べ。解答番号は **24**。

① 言語生活のなかで計量思考が次第に大きくなってゆくことは、人類の普遍的变化だといえる。

② 時間の経過が早いと感じるときに比べ、遅いと感じるときの方が、時計という機器をより強く意識する。

③ 漱石作品の中で『吾輩は猫である』と『こゝろ』とでは、時間感覚の描写に違いがみられる。

④ 漱石は、英語の kill time を「時間を潰す」と訳した最初の日本人である可能性が高い。

〔二〕 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

わたくしは日頃、何百年も以前に死んでしまった人のことばを、読んだり調べたりしている。編集部から「日本人の国語に対する考え方、^(ア)ナイス態度の変遷というような問題」について書くことを求められたので、今回は、ことばが過去において担っていた呪力という問題を^(イ)扱ってみたいと思う。

近き事か、⁽¹⁾鳥羽より伴ひて月参りする者あり。一人は男、一人は入道なり。ある時この入道、三つ成りの橘を賜りぬ。男の曰く、「さるべき事にてこそ、年頃入道殿と伴ひて参りつらめ。その橘一つをば某に賜べ」と乞ひけり。入道の申しける、「異事をば何事も承るべし。橘におきては叶ふまじ」とて、紙に包みて懐に入れぬ。下向する道にて様々に乞ひけれども、叶はず。男、「いかがせまし」と思ひ煩ひて、道にて、「しばらく休み給へ」とて、人の家に立ち入りて酒を取りて飲ませけり。入道、酒には酔ふと言へども、橘をばなほ惜しみけり。男曰く、「世に色も無き入道殿かな。まことには給はずとも、せめて言葉なりとも賜ぶとのたまへ」と申しければ、入道申しけるは、「それは易きこと」とて、「橘を参らすぞ」と申しけり。その時、男喜びて、⁽²⁾直垂の袖に受け取るやうに持ちてけり。その後、男は次第に栄えけり。入道はもとの如し。これは、今から約七百年ほど前、鎌倉時代の中頃に成立した『八幡宮巡拝記』という説話集に載っている話なのであるが、ここには、かつてわれわれの祖先が抱いていた、ことばというものに対する古い考え方が、きわめて興味深い形で反映していると思われる。

⁽³⁾三つ成りの橘を分けてもらえなかった男は、なぜ、ことばだけでもと言って、ことばを欲しがったのだろうか。また、どうして、ことばを受け取っただけで、かれは幸福になり、一方、しっかり実物を離さなかったにもかかわらず、不用意にことばを発したばかりに、入道は幸福から見離されてしまったのだろうか。

理由は三つ成りの橘が、発せられたことばと共に、実質的には、相手に渡ってしまったからに外ならない。ことばとは、実際の事物と同等以上の価値をもつものだという考え方が、ここには見出される。

次にもう一つ、こんどは、ある心理学者によって観察された例を挙げてみよう。

二歳になる子供が、新しく覚えたばかりの歌をうたっていた。「かわいい歌ね」と母親が言う。「お母さん、欲しい？」と尋ねるので、「ええ」と返事をする、子供は「さあ、あげましょう」と言いながら、手を口に入れ、親指と人さし指をつかむような形を作って、母親に渡した。

ことば——このばあいは歌——を、一つの物として相手に与えようとする思考と、さきの、物をことばによって相手に与えようとする思考は、決して別個のものではない。いずれも、ことばを物と同じもの、物自身であるとする考え方の発動なのである。ことばと物とを同一視する思考が、精神の未分化・未発達な段階にある小さな子供の世界にケンチョな現象であることは、つとに発達心理学の力説するところである。その精神が未分化・未発達な段階にとどまっているという点で、児童の心性と対比されることの多い原始的な社会にあつては、ことばを物として考える思考が特にいちじるしい。

かれら原始的な社会の人の間では、ことば、特に最も原始的な形として、物の名というものが、物そのものと同一視されている。名称は単なる記号ではなく、物の性質であり、部分であり、さらにはそれ自身なのであつて、名を切り離れた物というものは存在しない。ソロモン諸島の原住民は、はじめて椰子の木を発見した男が、木の名前を犬に教えられることによって、かれの所有物とすることを得たという伝承を伝えている。

この話などは、名が物に対してもつ本質的な力というものを示す好例だといえよう。名を獲得することが、同時に物を獲得し支配することに結びついたのである。こうした思考の世界では、人の名というものが非常に重要な意味をもっている。椰子の木のばあいと同じく、知らない人の名も、それを知ることが、すなわちその人を獲得支配することになるからである。

日本の古代にも、女が男に名を告げるといふことは、男にすべてを許すことだといふ考え方があつた。⁽⁶⁾『万葉集』の歌にも、そういう例が見られる。

- A ^(a) 難波瀾 潮干に出でて 玉藻刈る 海人乙女ども 汝が名告らさね (卷九・一七二六)
- B 漁りする 人とを見ませ 草枕 旅ゆく人に 吾が名は告らじ (卷九・一七二七)

C 隼人の 名に負ふ夜声 いちじるく 吾が名は告りつ 妻と頼ませ

(卷十一・二四九七)

女に名を問うことは求婚、女が名を教えることは承諾を意味していたのである。

D 住の吉の 敷津の浦の なりの藻の 名は告りてしを 逢はなくも怪し

(卷十二・三〇七六)

「名」の枕詞に、Xの意味をこめた「なりの藻」を用いている点に注意したい。女の名は、簡単に教えるべきものではなかったのである。

名に関するタブーは、必ずしも男女間に限るものではない。未開社会では、あらゆる対人関係の中にそれがある。相手に害を加えようとすれば、その人の名を呼んで呪術をかけることができる。名が悪意ある使用を受けると、当人にきつと災いをもたらされるところである。だから、自分の名前はひたかくしにして、親など以外に知る人はなかった。動物や事物の名前も、軽率(甲)に口に出すことはできなかった。ある原始的な部族は、蛇の話をするとき、「蛇」ということばを絶対に使わず、他の言い回しを用いて話す。「蛇」の名を呼ぶと、本当に蛇が出てきてかれらを喰い殺してしまうという怖れにもとづいている。「忌みことば」というものの発生する一つの原因がここにある。

その事物の名を口にすると、その通りの事物が出現し、言った通りの結果になるという思想は、古代日本では「言霊」と名づけられていた。「ことだまの幸はふ国」とは、言語の精霊が常に良い事をシヨウライする国だという意味である。良い事が実現するように、晴れの日には「寿言」をとなえる一方、良くないことばは極端に忌みきらわれた。『沙石集』という鎌倉時代の説話集(8)に、船に乗った一人の若い法師が、どこからきたときかれて、「風早かぜはやから」と答え、風の早いことをきらう船頭の響ひんしやくを買い、更に「唯蓮坊」と名のつて、船賃も持たず「唯乗り」をするつもりかといやがられ、「それでは、船の舳先へさきの方へ行つて、ひっくりかえつて寝るとしよう」と言ったので、あまりのひどさに、しまいには船頭まで笑い出してしまった、という話が載っている。

下総しもふもとの国のある渡りに、便船べんせんせむとて、若き法師出で来たる。「いづくよりぞ」と問へば、「風早の唯蓮坊のもとより」と言ふ。船人極めて言葉をいむ習ひにて、「あらいままし」(10)。風早といふだにもいぶせきに、唯蓮坊、いよいよ恐ろし。さりとして、船賃なむど、持たぬげなる御坊の、口の悪さや」と言へば、「ただ乗せておはせ、賃には、大豆のこぼれこぼれ一升持ち

て候ふぞ」と言へば、「この坊の、またいまいましきことのたまふ。こぼれこぼれの聞きたくもなさよ」とて、「降り給へ、降り給へ」と叱りければ、「ここにあればこそ、むつかしくものたまへ。舳の方へ行きて、うちかへつて臥せらむ」と言ひければ、なかなか、⁽¹³⁾あまりのことに、笑ひて乗せてけり。さのみこそ、船言葉とりあつめて、悪しくつづけたれ。常に危難に直面している船乗りが、いかに悪いことを嫌悪⁽¹²⁾していたかということをも物語る面白い話である。

「言」がそのまま「事」につながる、アニミズムの思想は、言語が記号としての性格を確立しているはずの現代においても、まだ完全になくなったわけではない。おめでたい日には使われないことがある。結婚式では「去る」「戻る」「出る」などを使わない。「高砂やこの浦舟に帆をあげて 月もろともに出で汐の」の「出で汐」は「入り汐」と改めてうたわれる。式場で、ことばの選択に気を使いながら、挨拶させられている人の気持は、ちょっと原始的な社会の人に通じた点がある。タブーでがんじがらめに縛りあげられていたアニミズム時代の言語生活は、どんなに不自由なものだっただろう。反対に、むしろ非常に楽しかったかもしれない。なにしろ、ことばをとえただけで、すべてが出現し、すべてを支配できたのだから。「開けゴマ」の呪文が立派に通力⁽¹⁵⁾をハッキリしていた時代だったのである。

(佐竹昭広「呪力の時代」による)

注 * 鳥羽^{とば} 京都の南の地名。

* 月参り 毎月寺や神社に祈願のために参詣すること。この場合は、京都の南にある石清水八幡宮への参詣。

* 三つ成りの橘 一本の枝に三つの実の成った橘。縁起がよいとされた。橘は柑橘類の一種。

* 直垂^{ひたれ} 当時の男性の着物の一つ。

* 便船 都合よく出る船に乗ること。

* 高砂や 能『高砂』の一節。結婚式でよく謡われた。『高砂』は長寿の夫婦の物語で、めでたい曲とされた。

問一 傍線部(ア)～(エ)を漢字に直した場合、それと同じ漢字を含むものを次の中からそれぞれ一つ選べ。解答番号

は **25**) **28** 。

(ア) ナイシ

25

- ① 大会のカイシを告げる
- ② 会社のシゴトを辞める
- ③ 上司のシジを仰ぐ
- ④ シフクの時を過すす

(イ) ケンチョ

26

- ① ケンビキヨウをのぞく
- ② ケンキョに振る舞う
- ③ ケンメイな判断を下す
- ④ ケンゼンな精神を養う

(ウ) ショウライ

27

- ① 新人をシヨウカイする
- ② ショウゾウガを描いてもらう
- ③ 結婚式にシヨウタイする
- ④ ショウジン潔斎に努める

(エ) ハッキ

28

- ① キセンを制する
- ② キリヨクが充実する
- ③ 全軍をシキする
- ④ キリツして迎える

問二 傍線部(甲)～(丙)の読みと同じ読み漢字を含むものを次の中からそれぞれ一つ選べ。解答番号は

(甲) 軽率 ① 効率 ② 率直 ③ 引率 ④ 率先

(乙) 嫌悪 ① 悪食 ② 險悪 ③ 悪者 ④ 悪寒

(丙) 通力 ① 努力 ② 底力 ③ 効力 ④ 自力

問三 傍線部(1)はどのような意味か。最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は

① 止むを得ない事情で ② そうなるべき運命で

③ 当然避けるべきことで ④ 何か分からない理由があつて

問四 傍線部(2)はどのような意味か。最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は

① 欲の無い ② 不人情な ③ 不機嫌な ④ 遊び心の無い

問五 傍線部(3)に当たるのは『八幡宮巡拝記』の本文の次のどれか。最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は

① その橘一つをば某に賜べ

② 橘におきては叶ふまじ

③ まことには給はずとも、せめて言葉なりとも賜ぶとのたまへ

④ 橘を参らするぞ

問六 傍線部(4)とはどのようなものか。最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は

① 概念を伝えることに終始するもの

② 音声を伴わない文字表現によるもの

③ 万国共通の単純化した意味を伝えるもの

④ 専ら視覚的イメージを喚起するもの

問七 傍線部(5)はどんな力か。最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **36**。

- ① 名が物の存在を証明する力
- ② 名が物そのものでもあり得るといふ力
- ③ 名が物の意味を定義する力
- ④ 名が物の外形を想像させる力

問八 傍線部(6)とあるが、A～Dの『万葉集』の歌のうち、男の詠んだ歌はどれか。最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **37**。

- ① A
- ② B
- ③ C
- ④ D

問九 傍線部(a)～(d)のうち、枕詞として機能しているものはどれか。最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **38**。

- ① a
- ② b
- ③ c
- ④ d

問十 傍線部(7)の品詞分解として最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **39**。

- ① 動詞―助動詞―助動詞―助詞
- ② 動詞―助動詞―助詞―助詞
- ③ 動詞―助詞―助動詞―助詞
- ④ 動詞―助詞―助詞―助詞

問十一 空欄Xに入るべき文として最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **40**。

- ① 名前を教えよ
- ② 名前をいつわれ
- ③ 名を名乗れ
- ④ 名前を告げるな

問十二 傍線部(8)とあるが、これと同時代の説話集はどれか。最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **41**。

- ① 今昔物語集
- ② 醒睡笑
- ③ 日本霊異記
- ④ 宇治拾遺物語

問十三 傍線部(9)について、次の間に答えよ。

- (i) 「顰蹙」の意味として最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **42**。
- ① 恨みの感情を持つこと ② 怒りをあらわにすること ③ 船の乗船券 ④ 眉をひそめること
- (ii) なぜそうなったのか。その理由として最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **43**。

- ① 法師の発言が、船頭の常識からはずれるものだったから。
② 法師の発言が、鼻持ちならない生意気なものだったから。
③ 法師の発言が、虫のよい我がままな要求を含んでいたから。
④ 法師の発言が、船頭の自尊心を傷つけ、その身を愚弄するものだったから。

問十四 傍線部(10)の意味として最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **44**。

- ① 憎らしい ② 現代的だ ③ 子供っぽい ④ 不吉だ

問十五 傍線部(11)について、なぜ船頭は「聞きたくもない」と思ったのか。その理由として最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **45**。

- ① 「こぼれこぼれ」の繰り返しがよく感じられたから。
② 法師の言葉が悪いことを連想させるものだったから。
③ 法師のしたことがだらしなく思われたから。
④ 法師の言動が傍若無人と受け取れたから。

問十六 傍線部(12)を漢字に直すとき、最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **46**。

- ① 却つて ② 還つて ③ 帰つて ④ 返つて

問十七 傍線部(13)とあるが、法師の言葉のどの部分が「あまりのこと」と受け取られたのか。最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **47**。

- ① ここにあれば ② むつかしくものたまへ ③ 舳の方へ行きて ④ かへつて臥せらむ

問十八 傍線部(14)について、これらの言葉は何の例として挙げられているか。最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **48**。

- ① 忌みことば ② 寿言 ③ 船言葉 ④ 呪文

問十九 傍線部(15)について、この実例に当たると考えられるものはどれか。最も適当なものを次の中から選べ。解答番号は **49**。

- ① 三つ成りの橘をやるうと言われた男が喜んだこと。
② 二歳の子供が歌った歌に、母親が「かわいい歌ね」と言ったこと。
③ 船に乗った法師が「こぼれこぼれ」と言ったこと。
④ 船に乗った法師の言葉に、船頭が笑ったこと。